

# 平和の俳句

# 松井さん 永平寺町 入選

## 安保法など世相背景に

本紙で連載している「平和の俳句」に、永平寺町松岡神明一丁目の無職、松井正之さん(50)の「陽溜りの四つ角明るい方へ行く」が初入選した。

俳句は二十歳過ぎに始めた。「今でも暇があれば詠んでいる」。雑記帳に日ごころから気に入った文章を抜

き書きしたり、詠んだ俳句を書き留めたりして、作品は一万句を超える。

平和の俳句にはこれまで十回以上投句してきた。今年の正月の天気の良い日に詠んだ「陽溜り」の句は、安保法や特定機密保護法の施行など「今の世相を背景に詠んだ。暗すぎる今、ど

こか明るい方を見たい、明るい方へ行きたい」という気持ちを込めた。

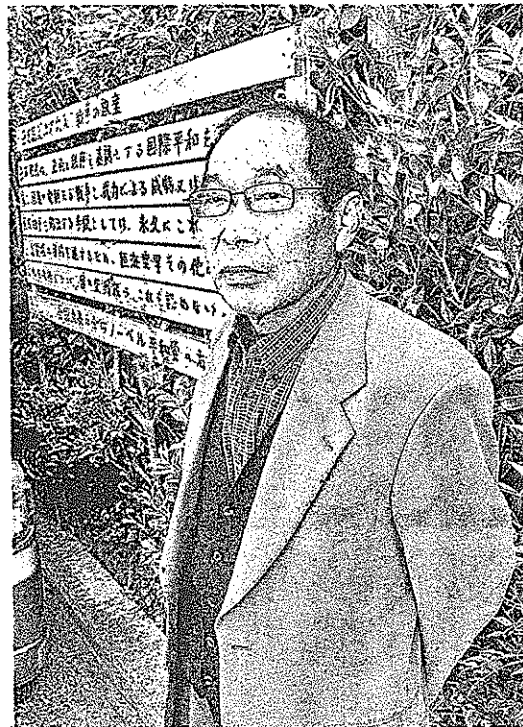
永平寺九条の会の設立メンバーでもあり、改憲に向けた動きを「絶対にさせてはいけない」と断言。憲法九条の条文は「世界に通じる言葉」と話す。憲法公布の十一月三日に合わせ昨

### 陽溜りの四つ角明るい方へ行く

松井 正之(73) 永平寺町

平和の俳句  
戦後71年

手作り看板に憲法九条の条文を書きした松井正之さん。「九条の条文は世界に通じる言葉だ」と話す  
|| 永平寺町松岡神明一丁目の自宅前で



年、自宅前に九条を手書きした看板も設置した。「俳句は生きてきた証し。私は言葉で浮かんだものを言葉でしか表現できない」。これからも俳句を日常的に詠む生活は変わらない。(中田誠司)

〈金子兜太〉日だまりでも特に明るい方へ行く。この自由さが平和への断固たる意志。へいとせいでこう面白い句である。のんびりと、真剣に道を選ぶ我々の本能と倫理。

2016.5.13